

ご覧になれます。

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.168**
音楽を通して沖縄の歴史や文化を含めた空間を提供
株式会社アジマア 代表取締役社長 照屋 林賢
- 5 **地域リレーションシップ情報 159**
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
地域経済に貢献する「地域未来牽引企業」を選定
- 6 **地域リレーションシップ情報 160**
沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について
フィンバブル沖縄セミナーを開催しました。
- 8 **中小機構 沖縄事務所の取組**
中小企業の海外展開への取組みについて
- 10 **けいざい風水**
- 12 **県内景況・確報**
2017年暦年の県内景況
- 20 **国内景気動向**
- 22 **沖縄マーケティング情報**
 - ①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
 - ②世界の中の沖縄(年次)
 - ③グラフでみる沖縄経済
 - ④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 42 **経済社会のできごと (沖縄、国内・海外)**
2018年1月
- 44 **各種セミナー等開催インフォメーション**



表紙写真/オオゴマグラ



音楽を通して沖縄の歴史や文化を含めた空間を提供

ajima inc.

株式会社アジマ

代表取締役社長 **照屋 林賢**

今回は、北谷のサンセットビーチを一望する絶好のロケーションに総合エンターテインメントホテル「リンケズホテル」をグランドオープンした、株式会社アジマの照屋 林賢 代表取締役社長にホテルの狙いや沖縄音楽、観光の在り方などについてお話を伺って参りました。

ホテル、レストラン、ライブハウス、レコーディングスタジオが一体となった総合エンターテインメントホテル

北谷町美浜、サンセットビーチを一望する絶好のロケーションに「リンケズホテル」が平成30年1月15日にグランドオープンしました。



ホテルの客室は、ビーチへのダイレクトエンタリーが可能な1階をはじめ全25室がオーシャンビューとなっており、沖縄料理店「リンケズキッチン」、ライブハウス「カラハイ」、レコーディングスタジオが一体となった総合エンターテインメントホテルです。ライブハウスは建物内でリニューアルオープンしました。



▲全25室がオーシャンビュー

これまでライブハウスでは毎週土曜日に「りんけんバンド」が出演し、毎週平均で100名ほどのお客様やファンの方々が来店されていました。演奏終了後は宜野湾や読谷、沖縄市などの周辺ホテルに宿泊される方々が多く、お客様やファンの方々の要望もあって、総合エンターテインメントホテルの発想に繋がりました。

「学ぶ・作る・配信」

リンケズホテルは誰でも分かり易いように「観・食・泊」をコンセプトにしていますが、実はそれ以外に「学ぶ・作る・配信」も重要なコンセプトになっています。

「学ぶ」

まだライブハウスやスタジオの準備が整っていないため、あまり表には出していないのですが、実は以前より三線教室や若いミュージシャンに沖縄メロディの作曲を教えています。今後は観光客も一日体験などで受け入れていく予定です。また、沖縄の歴史や文化が学べる「場」の提供もやってみたい一つの分野です。

「作る」

プロ使用のレコーディングスタジオは、ライブハウスとも直結し、国内外のアーティストに滞在型の快適なレコーディングをご提供します。

世界標準プロ機材の「56チャンネルSSLデジタルミキサー」をはじめトップクラスの音楽制作ができるプロ機材と環境を整えています。

「アジマレコード（沖縄民謡、エイサー等）」、「りんけんレコード（照屋林賢プロデュース）」の音楽はここで制作しています。

レコーディングスタジオがホテルの源であり、音楽ありきでホテルの計画を進めてまいりました。私共は単に部屋を提供しているのではなく、部屋は一部であって、音楽を通して沖縄の歴史や文化を含めた空間を提供しています。

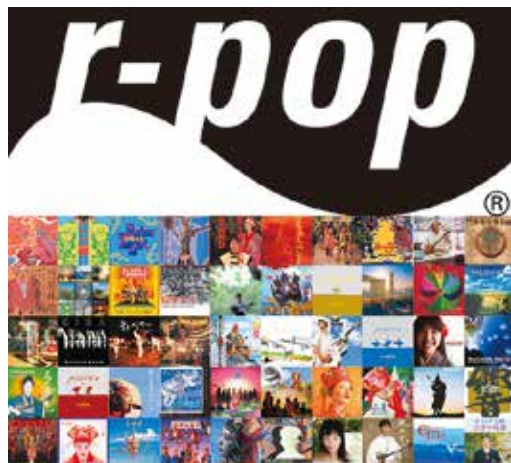


▲プロ使用のレコーディングスタジオ

「配信」

「アジマレコード」、「りんけんレコード」の音源を始め、沖縄に古くから伝わる民謡や古典音楽などのルーツミュージック、また、国内外の優れた楽曲を Apple社 の iTunes Store で沖縄から世界に向けて音楽配信の代行を行っています。

ルーツミュージックは自分達の国の音楽という意味で、自分達の足元にある音楽を土台にして新しい表現が生まれています。ポップスもルーツミュージックが土台となっています。



自分達の音楽、サウンドを 持っているのが強み

リンケズホテルの強みは自分達の音楽、サウンドを持っていることです。他のホテルで自分達の音楽を持っているホテルは見た事ありません。ホテルのBGMはほとんどが借り物です。自分達のオリジナルの音楽を持つという事を最大限に活かしてブランドづくりに励んでいます。

特に力を入れているのはライブです。幅6メートル、高さ3.5メートルの4K大型液晶を設置し、ステージと客席との一体感で盛り上がります。「りんけんバンド」「ティンクティンク」「たあーちゅ」の活動拠点であり、アトラクションやパフォーマンスを取り入れながら、初めて私達の音楽に触れる方々にも感動して帰っていただけるライブを日々、目指しています。



▲4K大型液晶

最近では、国内の観光客や修学旅行生以外に外国人観光客も増えてきています。今までりんけんバンドは、南・北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界各地でツアーを行い、沖縄語で歌っても言葉は大きな問題にはなりませんでした。

なぜなら、りんけんバンドの活動はパフォーマンスであり、「音」は言葉の意味が分かるから理解できるのではなくて、全世界共通で人は「音」としての楽しみ方が備わっています。



常設の舞台上で上質なエンターテインメントをつくり上げていく

沖縄では音楽で生計を立てていくのが難しく、大半のミュージシャンやそのスタッフは別の仕事をしながら片手間で音楽に取り組んでいるため、舞台になると上質なパフォーマンスができず、素人レベルから抜け出し切れずにいます。

そこで、沖縄では本土から人気のパフォーマーやそのスタッフを連れてきてイベントが開催されるのですが、地元にはほとんどお金が落ちず、人材も育ちにくい環境にあります。

私はもっと、沖縄のミュージシャンやそのスタッフを含めた音楽関係に従事する人たちが育つべきだと思います。

エンターテインメントには2つあり、一つはホールを借りたりする仮設のエンターテインメント、もう一つは常設のエンターテインメントです。沖縄の特徴かもしれませんが、多くは仮設のエンターテインメントです。まずは常設の舞台上で上質なエンターテインメントをつくり上げていきたいと思っています。



▲ライブハウス「カラハイ」の舞台

昔の戦国時代の話ですが、琉球は「音楽」の国、大和は「武」の国、中国は「書」の国と言われていました。実は沖縄は世界中でも珍しいくらいたくさんの音楽が作られてきた国です。

もう少し沖縄の人がその意識を持って、また、自信を持って音楽に取り組めば、音楽は沖縄の経済を支える柱の一部になると私は思います。

地域一体で衰退する沖縄の文化を継承し盛り上げられる街づくりに貢献

県内では外資や本土資本で大型ホテルが次々とオープンしているのですが、バリ島やハワイにあるリゾートホテルのスタイルで作られ、沖縄ではなくよその国のリゾートを感じさせるようなものが多く、沖縄の文化が感じられません。

また、沖縄の地域性が閉ざされたホテルが多くなってきているのを危惧しています。

そこで、リンケズホテルが沖縄文化の発信地となり、将来的には私共ホテル単体ではなく、地域一体で衰退する沖縄の文化を継承し盛り上げられる街づくりに貢献していけるのが理想だと考えています。

沖縄に観光に来てホテルに泊まって、海が綺麗だから泳いで、美味しいものを食べて帰るというだけではなく、地域の人の生活まで垣間見ることができ、一緒に交流ができた方が、沖縄の魅力をもっと感じる事が出来ると思います。



▲沖縄の音楽と文化に触れる修学旅行ライブ



観・食・泊 沖縄エンターテインメントリゾートホテル

RINKEN'S HOTEL OPEN

波の音、三線の音色・・・沖縄を感じて 心ゆくまで堪能できる楽園ステイ

サンセットビーチが目の前に広がる絶好のロケーションに建つRINKEN'S HOTEL。全室オーシャンビューの贅沢なゲストルームに、ライブハウス「カラハイ」、沖縄料理「RINKEN'S KITCHEN」が併設された総合エンターテインメントホテルで、沖縄を存分に満喫していただけます。

リンケンズホテル

〒904-0115 沖縄県北谷町美浜8-11 TEL098-926-1005 (フロント直通)

- 1階／ライブハウス「okinawan music カラハイ」 TEL 098-982-7077
沖縄料理レストラン「リンケンズキッチン」 TEL 098-926-3008
- 1～3階／宿泊施設 (総客室数 25室・全室オーシャンビュールーム)
- 3階／プロ仕様レコーディングスタジオ



詳しくはこちらのQRコードから
URL www.rinken.gr.jp

アクセス

- ◎沖縄自動車道「沖縄南 IC」下車、県道 23 号線を北谷方面へ約 15 分
- ◎空港よりバスをご利用の場合、那覇空港線 120 番に乗車「軍病院前」バス停下車、徒歩約 10 分



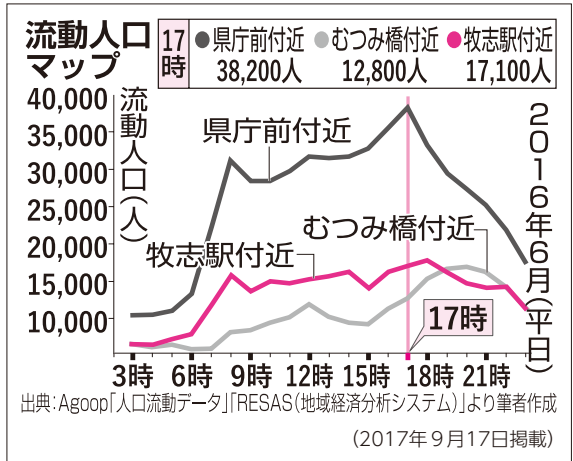
リーサスの活用 アイデア次第で活用幅広く

情報テクノロジーの急速な発展から、従来では結び付けることが難しかった企業保有の大量データや、インターネット、会員制交流サイト（SNS）上で飛び交う情報など、いわゆる「ビッグデータ」をビジネスに活用する動きがあります。また大量データを加工・分析し、経営戦略に生かす「データサイエンティスト」と呼ばれる職種も広まってきました。

このような動きは民間に限ったことではありません。経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）では2015年から「地域経済システム（RESAS＝リーサス）」（<https://resas.go.jp>）と呼ばれるシステムをインターネット上で公開しており、産業構造や人口動態、人の流れなどに関するビッグデータを提供しています。リーサスは地方創生を支援するために、地方自治体の政策検討・検証などの場面で活用が期待されており、豊見城市や南城市が作成した分析も活用例として公開されています。

リーサスは自治体向けに限ったシステムではなく誰でも利用が可能です。人口マップ、企業活動マップ、観光マップといったカテゴリーがありますが、例えば、任意の地域を指定することで、その地域内の事業者数や将来人口推計、流動人口などをわずか数回のクリックでグラフに表示できます。アイデア次第では、ビジネスや地域コミュニティ、教育といった場でも活用できそうです。ご興味ある方はポータルサイトをのぞいてはみてはいかがでしょうか。

（沖縄銀行 総合企画部収益管理室調査役 屋良 武也）



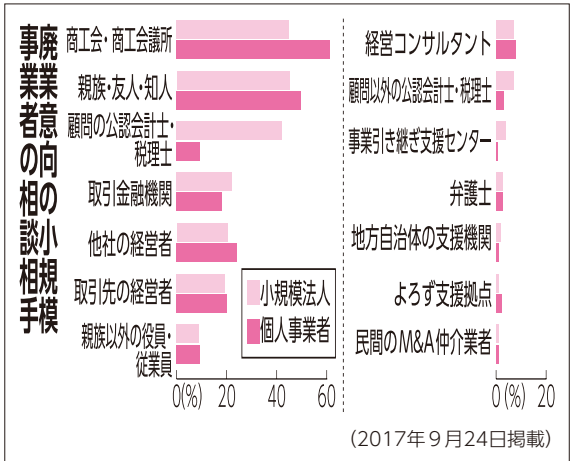
事業の幕引き 早め相談で選択肢広がる

2016年経済センサスー活動調査（速報）によれば、沖縄県は事業所数が増加しており、全国でも宮城県に次いで2番目に高い増加率となっています。17年中小企業庁白書によると、沖縄県の開業率は7.0%と全国一高く、廃業率は3.7%と全国平均の3.8%より低くなっています。国内外の観光客数の増加など、好調な県内景況を反映していると思われる。

しかし、全国平均より低いとはいえ、一定数の廃業事業者がいることは事実であり、産業構造の変化、事業主の高齢化を踏まえると新旧事業の入れ替えは今後も続くものと思われます。事業主の引退に際し、後継者を育成するなどして事業を引き継ぐ（承継）ことが望ましいですが、自身の代で事業を終了（廃業）する場合でも、取引先との関係や従業員の生活を考えると、余力を持って計画的に事業終了することが重要です。そのためには「いつまでに何をやる必要があるのか」「廃業後の自身、従業員の生活設計、準備期間」などの課題を検討する必要があります。

廃業する場合でも、商工会、商工会議所、よろず支援拠点、顧問税理士、取引金融機関といった支援機関へ早めに相談することで選択の幅が広がる可能性があります。自身で築いた事業を、一部でも次の世代に残すために、早めに行動してみてもはいかがでしょうか。

（沖縄銀行 営業店事務指導部調査役 向井 聖）



インターンシップ 適性見極める絶好機

近年では、職業を選択する上で「インターンシップ」が必要不可欠となってきました。文部科学省および厚生労働省、経済産業省の定義によると、インターンシップとは学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこととなっています。

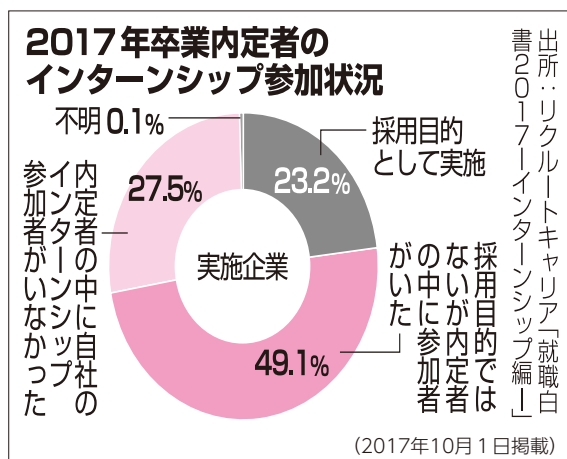
インターンシップ開催の目的は「仕事理解」「業界理解」を行い、企画提案や課題解決能力、実行力を兼ね備えた社会人基礎力の実践にあります。そのため受け入れ企業として積極的な参加を推奨し、入社後のミスマッチを最小限にすることも視野に入れています。

インターンシップ実施企業では、そもそも採用を目的として実施していないものの、結果として内定者の中にインターンシップ経験者が多いことも事実です。学生としても、インターンシップを経験した企業や関連した同業種へ入社を予定しているケースも多いことから、実施企業としても採用活動における母集団形成に大きく寄与しているものと思われます。

このような背景から、インターンシップ開催の現状も「説明のみ」の1DAYインターンシップを始め、「課題解決プロジェクト」を設けた2週間プログラムなどさまざまな形態が存在します。いずれの形態のインターンシップも企業側が臨機応変に対応することで、学生が個々の時間に合わせた有意義な就職活動が展開できると同時に、より企業への理解を深め、自身の職業選択における適性を見極める絶好な機会となっていくことでしょう。

(沖縄銀行 人事部人事・研修グループ調査役

辺土名 博吉)



スポーツ実施率 働き盛りほど低下

10月に入り、秋の運動会シーズンがやってきました。わが子のためにと張り切って「親子リレー」に参加したものの、日ごろの運動不足を痛感したという経験をお持ちの方もいらっしゃるのではないでしょうか。

スポーツ庁の調査によると、週1日以上、運動・スポーツをする人の割合は、男性が44.3%、女性が41.1%となっており、種目としては「ウォーキング」が最も多く、次いで「体操」「トレーニング」「ランニング・マラソン・駅伝」が続いています。運動・スポーツを行った理由としては「健康のため」(77.4%)、「体力増進・維持のため」(53.0%)が上位となっていることから、自身のヘルスケアを意識して体を動かす傾向が強いようです。

年代別で比較すると、男女ともに実施率が最も高い年代は70代で、逆に最も低い年代は男性が40代、女性が30代となっており、働き盛りの世代や子育て世代の実施率が低い傾向にあります。実際に同調査の結果を見ると、運動・スポーツの実施阻害要因としては「仕事や家事が忙しいから」(32.8%)が最も多く、他には「面倒くさいから」(24.0%)、「年をとったから」(15.9%)などが挙げられています。

年齢を重ねるに当たって、自身の「体」はもちろんのこと、家庭や仕事など「取り巻く環境」も変化していきます。大切なことは、その年代の自分に合った運動・スポーツに興味を持ち、時間やルールを工夫しつつ楽しめる「心の柔軟性」なのかもしれません。

(おきぎん経済研究所 研究員 喜瀬 真人)

